

各関係機関長 様

熊本県病虫害防除所長

病虫害発生予察注意報について(送付)

このことについて、令和3年度(2021年度)病虫害発生予察注意報第4号を公表しましたので、送付します。

注 意 報

令和3年度(2021年度)病虫害発生予察注意報第4号

農作物名 イチゴ
病虫害名 アザミウマ類

- 1 発生地域 県内全域
- 2 発生時期 1月下旬以降
- 3 発生程度 平年比 多

4 注意報発表の根拠

(1) 昨年11月からアザミウマ類(主にヒラズハナアザミウマ及びミカンキイロアザミウマ)の発生が平年に比べて多い傾向にあり、1月中旬に実施した巡回調査においても寄生株率24.0%(平年7.9%)、寄生頭数5.9頭/10株(平年1.1頭/10株)で平年比多の発生であった(図1、2)。

(2) 例年2月中旬頃から気温が上昇傾向となることから、今後、本害虫の発生量が増加していくことが予想される。

特に、ハダニ類に対する天敵を利用しているほ場では、使用できる薬剤が限定される場合があるため、本害虫の発生量がさらに増加し、被害が拡大することが懸念される。

5 防除対策

本害虫は、イチゴの花や果実に寄生し、果実表面の加害により果実の外観品質等を低下させる(写真1、2)。発生が多くなり、ほ場内に様々な発育ステージが混在するようになると防除が困難になる*ため、以下の防除対策を実施する。

*蛹は土中に潜んでいるため薬剤がかからず、十分な防除効果が得られない。

(1) 早期発見と発生状況の把握

ア 施設内に青色粘着板トラップを設置し、トラップへの誘殺の有無により早期発見と発生状況の確認を行う。

イ 開花中の花を白紙上で軽く叩くか、軽く息を吹きかけるなどを行い、花での寄生状況を確認する。

(2) 耕種的・物理的防除

ア 施設内及び周辺の雑草は重要な発生源となるので、雑草が開花する前に除草する。

イ 施設内に青色粘着板トラップを設置し、発生密度を低下させる。

(3) 薬剤防除

ア 多発生すると防除が困難になるため、発生初期から薬剤防除を徹底する。

イ 薬剤抵抗性の発達を防ぐため、系統の異なる薬剤のローテーション使用を行う。

ウ 訪花昆虫（ミツバチ等）への影響や天敵（カブリダニ類等）を放飼したほ場においては天敵への影響を考慮して、使用する薬剤を選定する。

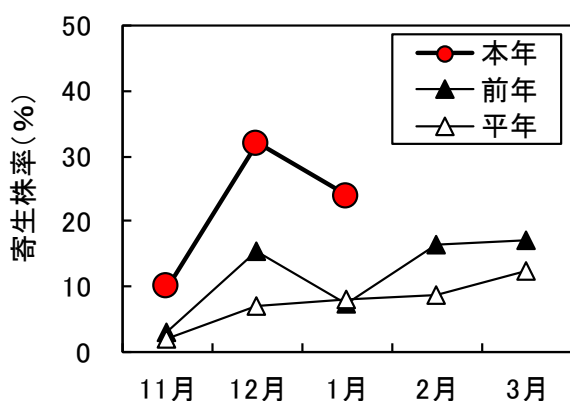


図1 アザミウマ類の寄生株率の推移(イチゴ)
(11-3月:本ぽ)

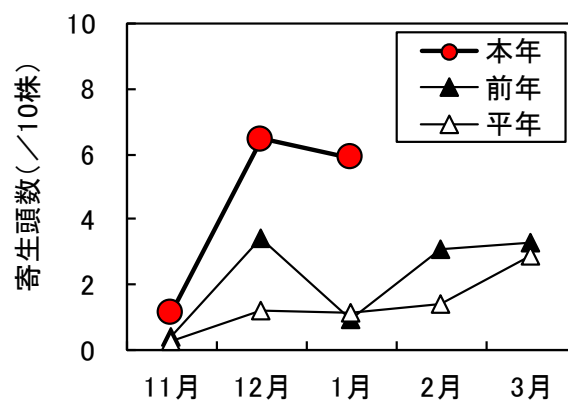


図2 アザミウマ類の寄生頭数の推移(イチゴ)
(11-3月:本ぽ)



写真1 イチゴ花に寄生するアザミウマ類
(体長1~2mm程度)



写真2 アザミウマ類による果実表面の被害

熊本県病害虫防除所
(農業研究センター生産環境研究所 予察指導室)
担当：中村、中井 TEL：096-248-6490